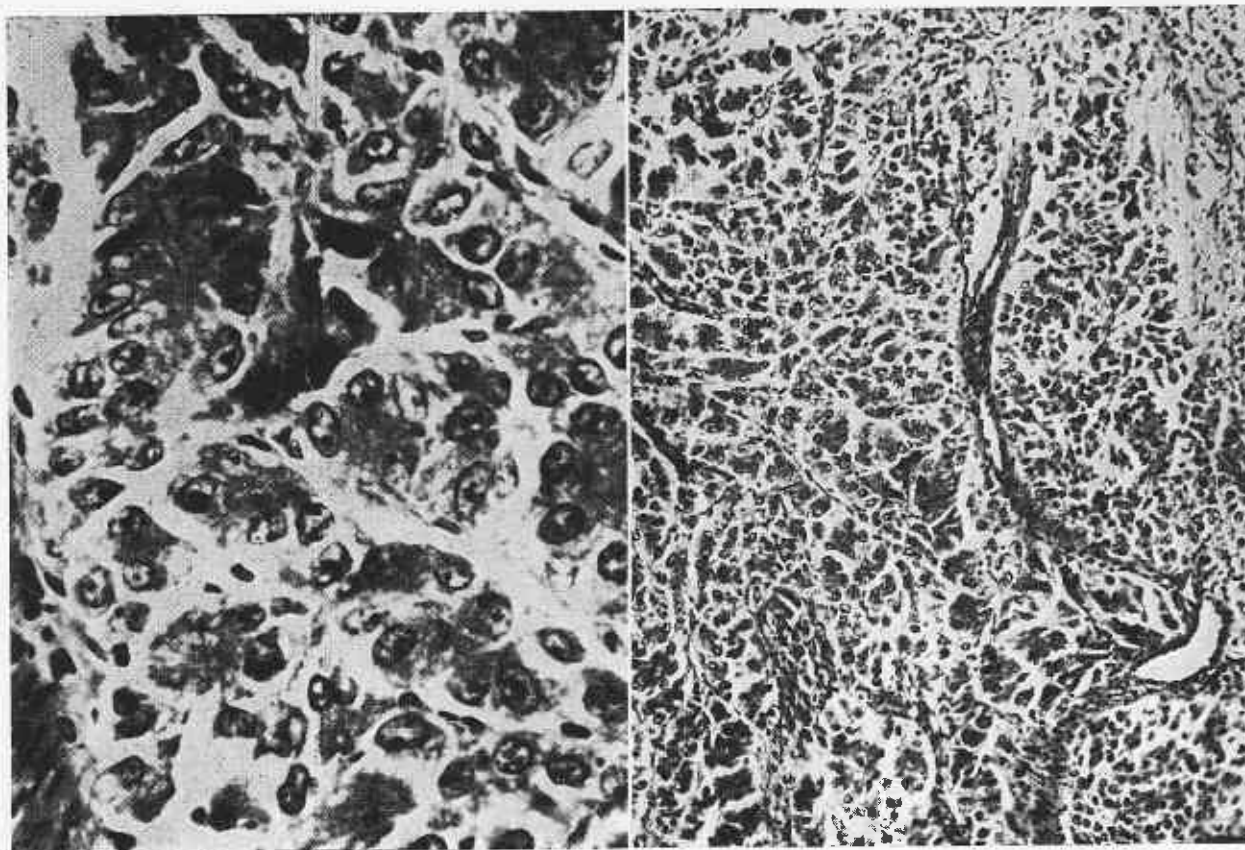


## 七面鳥の腺癌

麻布獣医大病理学研究室出題・第5回獣医病理学研修会標本 No. 69



七面鳥雌の腹腔内に認められた、大きさ 16 cm × 9 cm の黄白色の少々硬い腫瘍である。組織学的には Eosin に好染する顆粒を持った細胞と持たない細胞質の明るい細胞との混在する腺癌である。この種の腫瘍は鶏に往々認められ、主として輸卵管腺上皮から由来したものと考えられている。この腫瘍も、それらに属するものかと考え

られるが、脾臓の腺細胞の Zymogen 顆粒に染色性の類似したところもあり今後さらに検討を要する。ホルマリン固定であるため 'Gomori, 中井, 倉田の酵素反応はこの材料について行つておらないが、鶏の脾臓細胞, 左輸卵管腺上皮と比較して種々の染色を行つて見た結果は下表のとおりである。

	脾臓 (鶏)	輸卵管上皮(鶏)	腺癌細胞(七面鳥)
顆粒の比較	小型多し	大小不同	小型多し
H・E 染色	E に好染	E に好染	E に好染
Azan 染色	赤紫色	鮮赤色, 黄赤色	赤紫色, 黄赤色
PAS 反応	—	—	+
酵素反応 (Gomori)	+	—	?
” (中井, 倉田)	+	—	?